

皮 膚

科目責任者 井 川 健
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

皮膚は人体を覆い、生命に維持に不可欠な機能を備えた重要な臓器である。

対外保護作用、体温調節作用、知覚作用、分泌排泄作用など種々の生理作用を持っている。

湿疹群、蕁麻疹、紅斑症、紫斑病、血管炎、薬疹、水疱症、角化症、炎症性角化症、膠原病、母斑および母斑症、良性および悪性皮膚腫瘍、細菌・ウイルス・真菌感染症、性行為感染症など多岐にわたる皮膚疾患を、可能な限りわかりやすく講義したい。

II. 担当教員

井 川 健, 片 桐 一 元, 鈴 木 利 宏, 林 周次郎, 野 老 翔 雲, 嶋 岡 弥 生,
木 村 有太子, 塚 田 鏡 寿

III. 一般学習目標

アトピー性皮膚炎、膠原病、感染症、皮膚腫瘍、水疱症など代表的な皮膚疾患の発症機序、皮膚症状、診断、治療を理解する。

IV. 学修の到達目標

- 1 KOH 法、パッチテストなど基本的な皮膚科的診断法を説明できる。
- 2 外用療法、PUVA 療法など主な皮膚科的治療を説明できる。
- 3 紅斑、紫斑、丘疹など主は発疹を説明できる。
- 4 アトピー性皮膚炎、膠原病、白癬症など主な皮膚疾患の診断、治療を説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1 : 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))

2 : ディスカッション, デイバート 3 : グループワーク 4 : 実習, フィールドワーク 5 : プレゼンテーション
6 : その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	4	火	4	皮膚の構造と機能 発疹学, 診断学, 治療	井 川 健	1
2		4	火	6	毛嚢脂腺系疾患, ウイルス疾患	片 桐 一 元	1
3		5	水	6	薬疹, 紅皮症, 角化症, 炎症性角化症	井 川 健	1
4		17	月	4	湿疹, 蕁麻疹, 紅斑症	井 川 健	1
5		18	火	4	水疱症, 膿疱症, 色素異常症	野 老 翔 雲	1
6		18	火	5	物理化学的障害, 皮膚外科およびレーザー治療	鈴 木 利 宏	1
7		18	火	7	紫斑, 血流障害, 血管炎	野 老 翔 雲	1
8	5	9	火	6	母斑, 母斑症	塚 田 鏡 寿	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
9	5	11	木	4	良性および悪性腫瘍, 細菌性皮膚疾患	嶋 岡 弥 生	1
10		11	木	5	ハンセン病, 動物寄生, S T I, 皮膚結核	木 村 有太子	1
11		16	火	6	代謝異常, 形成異常, 肉芽腫	林 周次郎	1
12		17	水	4	全身性エリテマトーデス, 皮膚筋炎	林 周次郎	1
13		18	木	5	強皮症, シェーグレン症候群, ベーチェット病	林 周次郎	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

1) 進級判定のための評価：学期末に皮膚科学的知識について、記述試験、客観試験（多肢選択方式）により行う。

VII. 教科書・参考図書・A V資料

皮膚科学 上野賢一著 金芳堂 第7版 他

VIII. 質問への対応方法

随時、受け付ける。ただし、事前に秘書を通じてアポイントをとること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

随時質問を受けつける。ただし、事前に秘書を通じてアポイントをとること。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習 所要時間：20分程度

予習用資料を配信するので必ず予習をすること。講義当日予習資料より小テストを行い、小テストの結果は総合成績に反映する。

事後学習 所要時間：30分程度

講義で配布したプリント、講義内容、ノートの復習をする。

XII. コアカリ記号・番号

D-3-2), 3), 4)

E-4-3)

E-2-4)

E-5-3)